## ２　地域間の結びつき

### （通勤圏域）

国勢調査により、主要都市（人口 10 万人以上の都市）への通勤率が５％以上となる市町村を通勤圏として整理すると、図表１-10-82 のとおりとなります。

2020 年を 2010 年と比較すると、圏域に含まれる市町村数が増加したのは、稲沢市、東海市、豊田市、安城市の４市となっています。

最も大きな通勤圏は、名古屋市を中心とする尾張全域（南知多町を除く）と西三河の５市に広がる通勤圏です。名古屋市への通勤率が 20%を超える市町数は 17 市町となっており、高い求心力を誇っています。

また、豊田市を中心とした通勤圏は、西三河から尾張北東部に広がっており、2010 年の８市町から 2020 年には 10 市町に拡大しています。

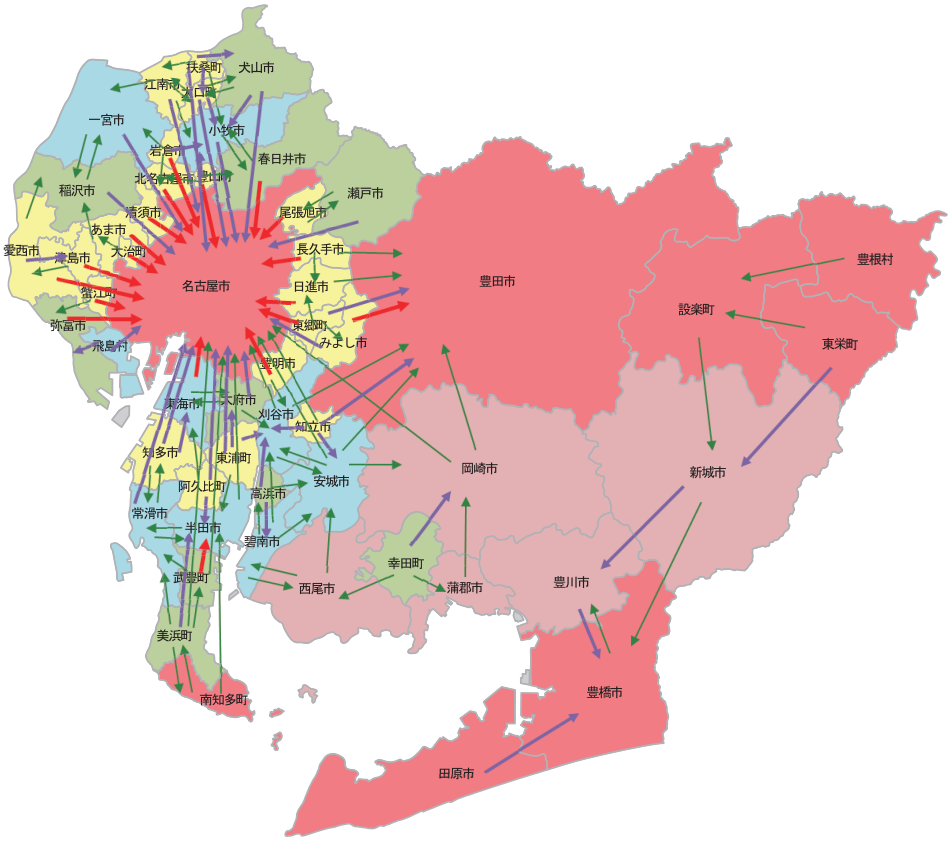
そのほか、刈谷市を中心とする通勤圏は尾張北東部と知多の３市町、小牧市を中心とする通勤圏は尾張中西部・海部の２市町が含まれるなど、地区をまたがる圏域が形成されています。

**図表１-10-82　主要都市への５%通勤圏の状況**

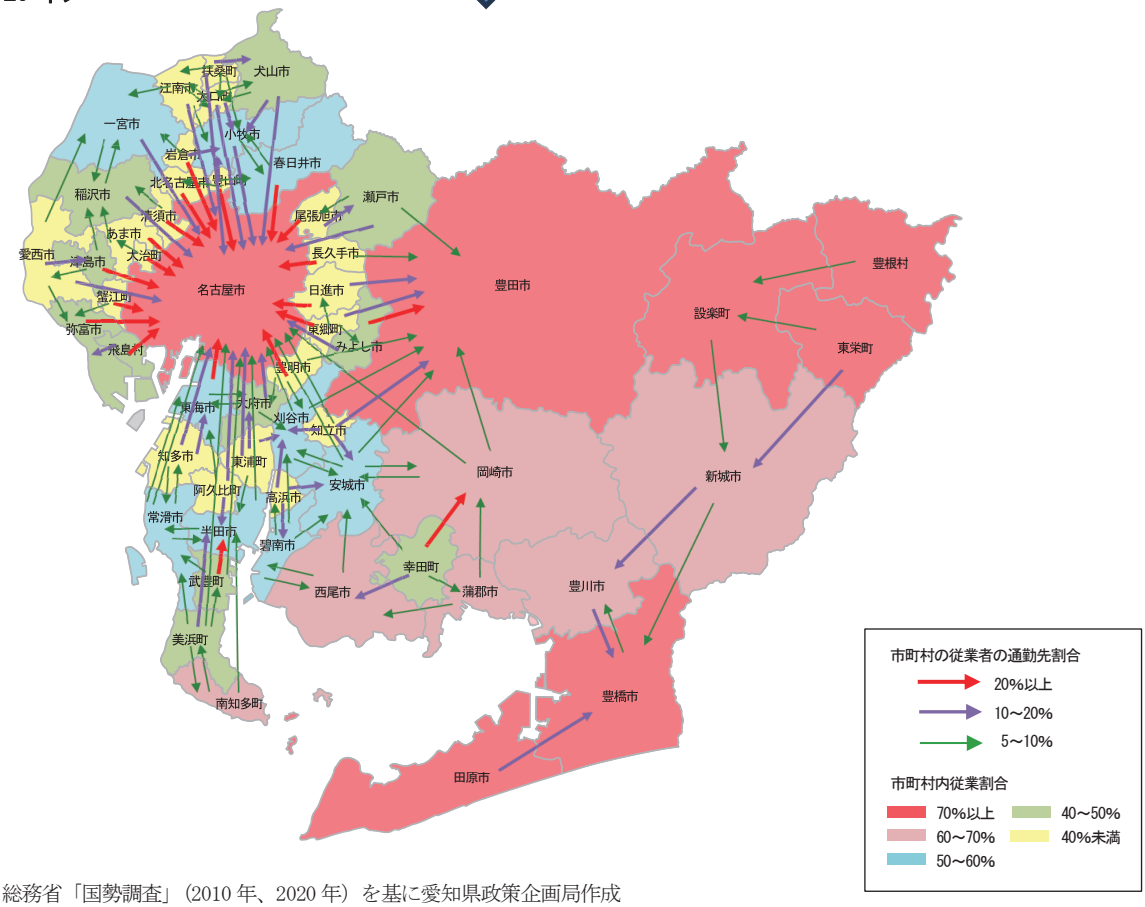
| 地区 | 主要都市 | 主要都市の圏域に含まれる市町村（2020 年） | 2010 年との比較 | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 圏域に加わった市町村 | 圏域から外れた市町村 |
| 名古屋 | 名古屋市 | 尾張地域全市町村（南知多町以外）、みよし市、岡崎市、刈谷市、安城市、知立市 | — | — |
| 尾張北東部 | 春日井市 | 小牧市、豊山町 | — | — |
| | 小牧市 | 春日井市、犬山市、江南市、岩倉市、北名古屋市、大口町、扶桑町、豊山町 | — | — |
| | 瀬戸市 | 尾張旭市 | — | — |
| 尾張中西部・海部 | 一宮市 | 稲沢市、江南市、岩倉市 | — | — |
| | 稲沢市 | 一宮市、津島市、清須市、愛西市、あま市 | 津島市<br>清須市 | — |
| 知多 | 東海市 | 大府市、知多市、常滑市、阿久比町 | 常滑市 | — |
| | 半田市 | 常滑市、阿久比町、東浦町、武豊町、南知多町、美浜町 | — | — |
| 西三河 | 豊田市 | みよし市、岡崎市、刈谷市、安城市、知立市、瀬戸市、豊明市、日進市、長久手市、東郷町 | 瀬戸市<br>豊明市 | — |
| | 岡崎市 | 安城市、幸田町、蒲郡市 | — | — |
| | 刈谷市 | 安城市、知立市、碧南市、高浜市、豊明市、大府市、東浦町 | — | — |
| | 安城市 | 岡崎市、刈谷市、知立市、西尾市、碧南市、高浜市、幸田町 | 岡崎市<br>幸田町 | — |
| | 西尾市 | 碧南市、幸田町 | — | — |
| 東三河 | 豊川市 | 豊橋市、新城市 | — | — |
| | 豊橋市 | 豊川市、新城市、田原市 | — | — |

※下線の市町村は、主要都市の地区外の市町村
出典：総務省「国勢調査」（2010 年、2020 年）を基に愛知県政策企画局作成

<2010 年>




<2020 年>




出典：総務省「国勢調査」（2010 年、2020 年）を基に愛知県政策企画局作成

**（通学圏域）**

国勢調査により、主要都市への通学率が５％以上となる市町村を通学圏として整理すると、図表１-10-83 のとおりとなります。

2020 年を 2010 年と比較すると、圏域に含まれる市町村数が増加したのは、名古屋市、一宮市、東海市、西尾市、豊川市の５市となっています。一方、豊田市と豊橋市では、圏域に含まれる市町村数が減少しています。

最も大きな通学圏は、名古屋市を中心とする県内全域（東三河の一部を除く）に広がる通学圏です。名古屋市への通学率が 20%を超える市町村数は 2010 年の 34 市町村から 2020 年には 36 市町村に拡大するなど、高い求心力を誇っています。

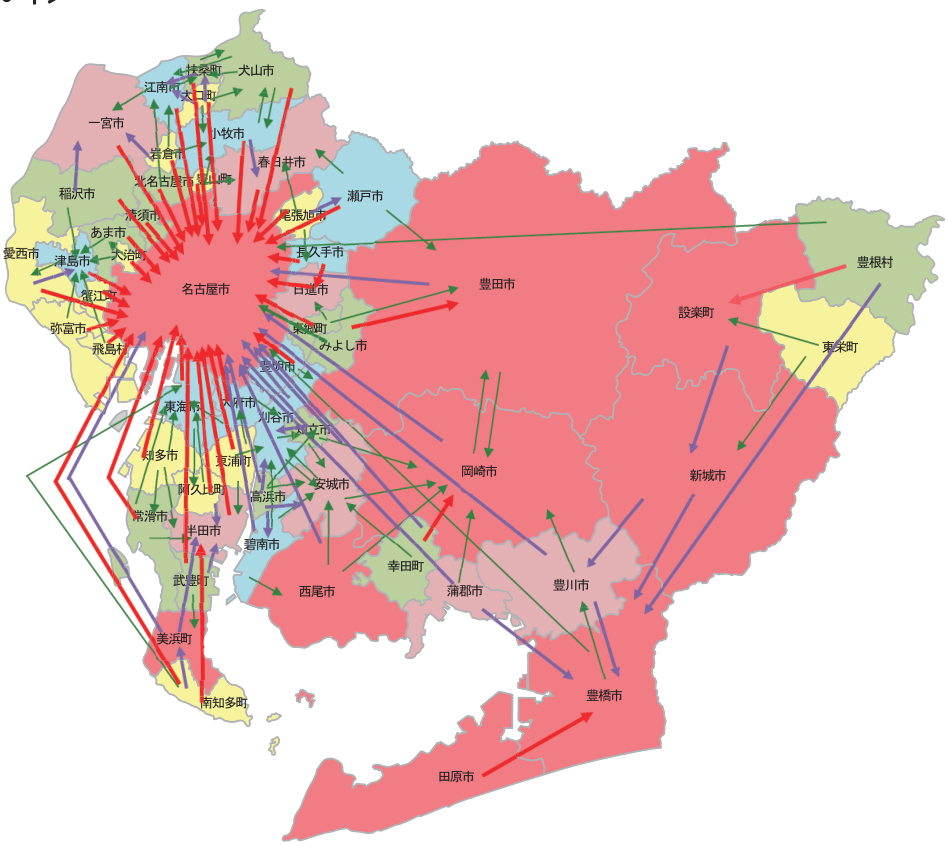
また、刈谷市を中心とする通学圏は尾張北東部と知多の３市町、一宮市を中心とする通学圏は尾張北東部の３市町、岡崎市を中心とする通学圏は東三河の２市が含まれるなど、地区をまたがる圏域が形成されています。

**図表１-10-83　主要都市への５％通学圏の状況**

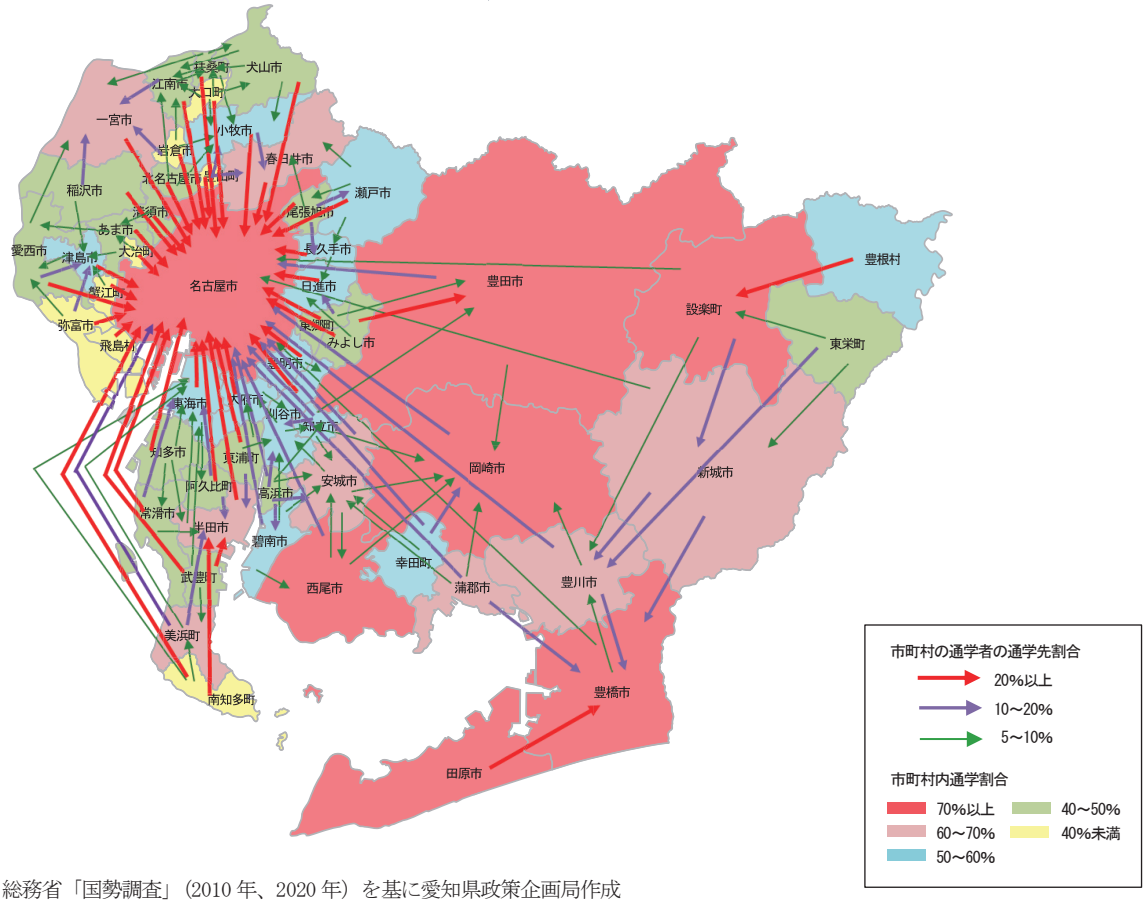
| 地区 | 主要都市 | 主要都市の圏域に含まれる市町村（2020 年） | 2010 年との比較 | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 圏域に加わった市町村 | 圏域から外れた市町村 |
| 名古屋 | 名古屋市 | 全市町村（田原市、東栄町、豊根村を除く） | 新城市<br>設楽町 | 豊根村 |
| 尾張北東部 | 春日井市 | 小牧市、瀬戸市、尾張旭市、豊山町 | — | — |
| | 小牧市 | 岩倉市、北名古屋市、大口町、豊山町 | 北名古屋市 | 犬山市 |
| | 瀬戸市 | 尾張旭市 | — | — |
| 尾張中西部・海部 | 一宮市 | 稲沢市、愛西市、江南市、岩倉市、扶桑町 | 愛西市<br>扶桑町 | |
| | 稲沢市 | — | — | — |
| 知多 | 東海市 | 常滑市、知多市、阿久比町、武豊町、美浜町、南知多町 | 武豊町<br>美浜町 | 大府市 |
| | 半田市 | 東海市、常滑市、知多市、阿久比町、東浦町、武豊町、美浜町、南知多町 | — | — |
| 西三河 | 豊田市 | みよし市、知立市、東郷町 | 知立市 | 岡崎市<br>瀬戸市 |
| | 岡崎市 | 豊田市、刈谷市、安城市、西尾市、知立市、豊川市、蒲郡市、幸田町 | — | — |
| | 刈谷市 | 安城市、知立市、碧南市、高浜市、豊明市、大府市、東浦町 | — | — |
| | 安城市 | 知立市、碧南市、高浜市、蒲郡市、幸田町 | 蒲郡市 | 刈谷市 |
| | 西尾市 | 安城市、碧南市 | 安城市 | — |
| 東三河 | 豊川市 | 豊橋市、新城市、設楽町、東栄町 | 設楽町<br>東栄町 | — |
| | 豊橋市 | 豊川市、蒲郡市、新城市、田原市 | — | 豊根村 |

※下線の市町村は、主要都市の地区外の市町村
出典：総務省「国勢調査」（2010 年、2020 年）を基に愛知県政策企画局作成

<2010 年>




<2020 年>




出典：総務省「国勢調査」（2010 年、2020 年）を基に愛知県政策企画局作成

**（地域間トリップ数）**

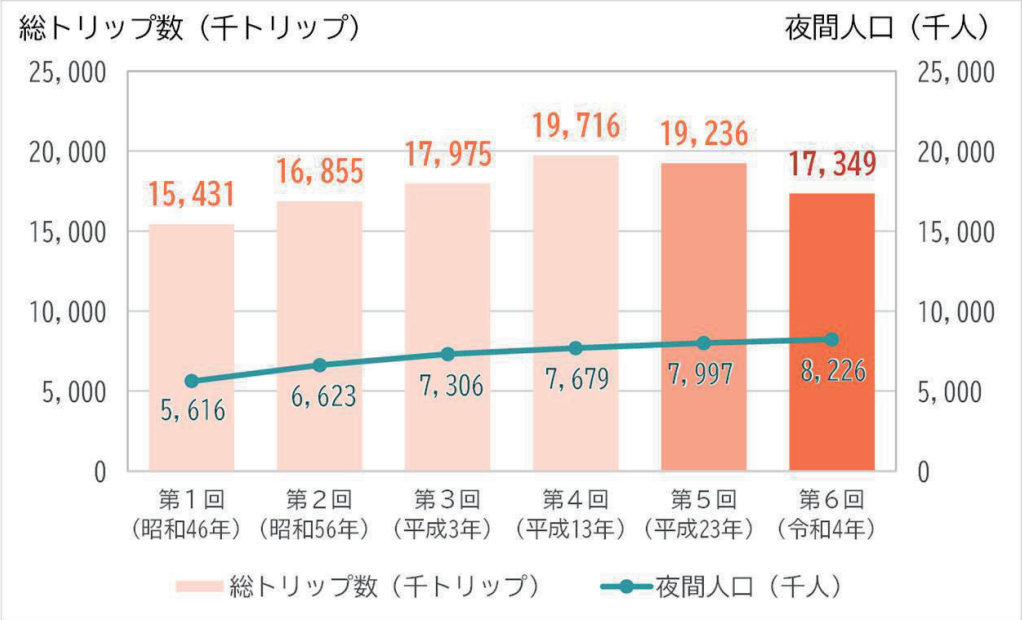
第６回中京都市圏パーソントリップ調査によると、中京都市圏（愛知県、岐阜県南部、三重県北勢地域）の総トリップ数は、第５回調査と比較して大きく減少しています（図表１-10-84）。これは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により人の移動が控えられていたことが大きく影響しているものと考えられます。

地域間トリップ数（平日）は、名古屋市を中心とした流動が多くを占めていますが、第５回調査から第６回調査の増減率を見ると、名古屋市を中心とした流動が減少し、名古屋市を取り巻く周辺部で増加しています（図表１-10-85、図表１-10-86）。

また、買物トリップ（平日）は名古屋市のほか、各地域の主要都市を中心に分散しており、近隣の市町村から集まる傾向が見られます（図表１-10-87、図表１-10-88）。

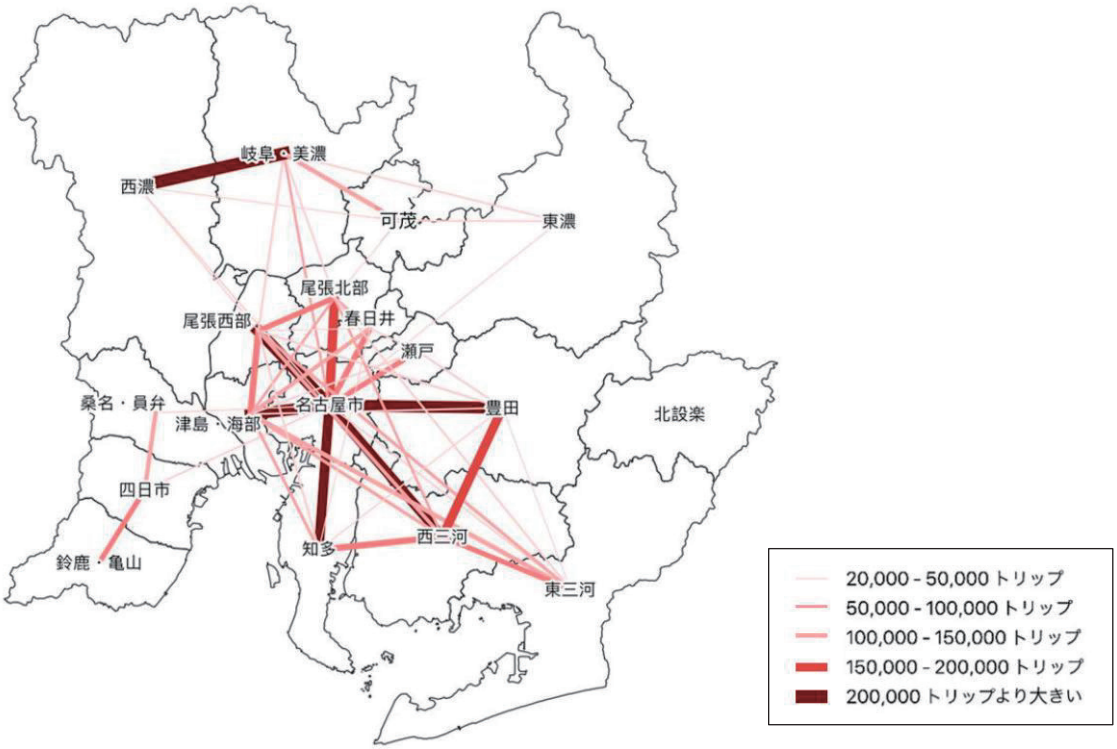
トリップ数の減少や郊外部への移動需要の増加は、コロナ禍を契機とした在宅勤務の普及に加え、インターネットを活用した購買行動や近隣の主要都市での買い物等が広く行われたことが要因の一つとして考えられます。

**図表１-10-84　総トリップ数の推移**



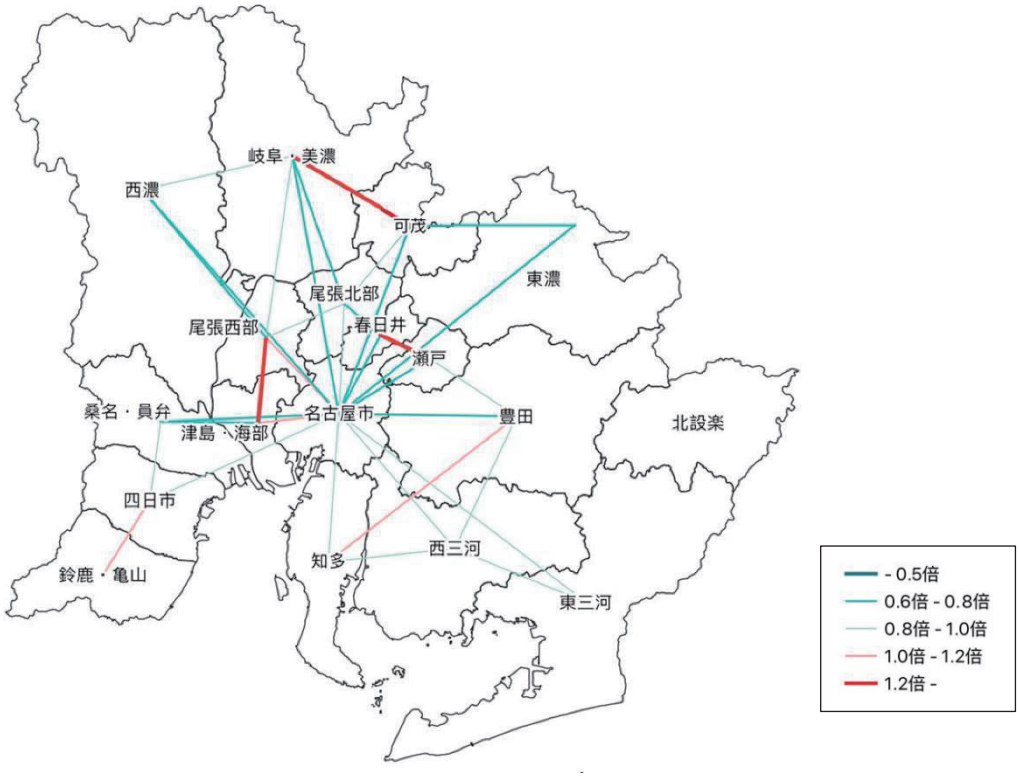

出典：中京都市圏総合都市交通計画協議会「第６回中京都市圏パーソントリップ調査」（2022 年調査、2025 年公表）

**図表１-10-85　地域間トリップ数の現状（平日）**



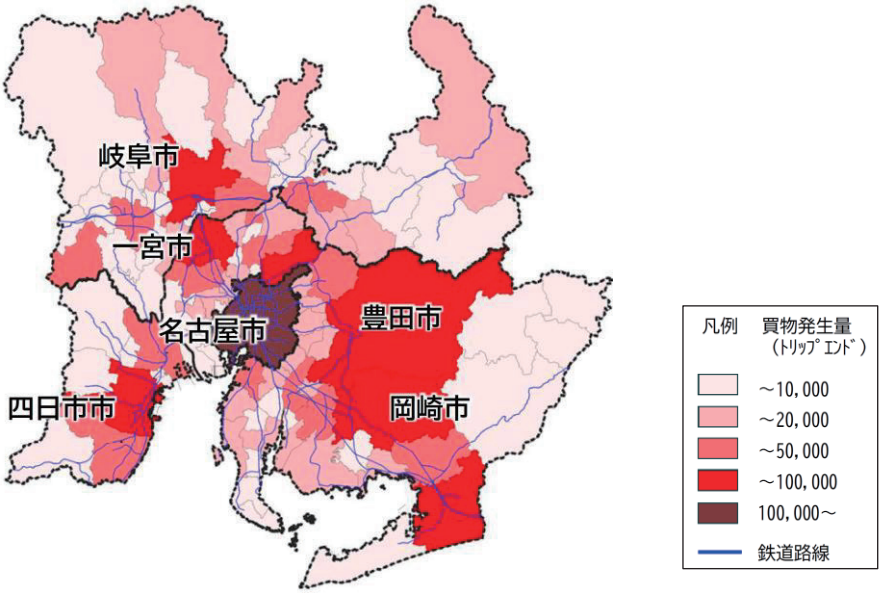

出典：中京都市圏総合都市交通計画協議会「第６回中京都市圏パーソントリップ調査」（2022 年調査、2025 年公表）

**図表１-10-86　地域間トリップ数の増減率（第６回調査／第５回調査：平日）**



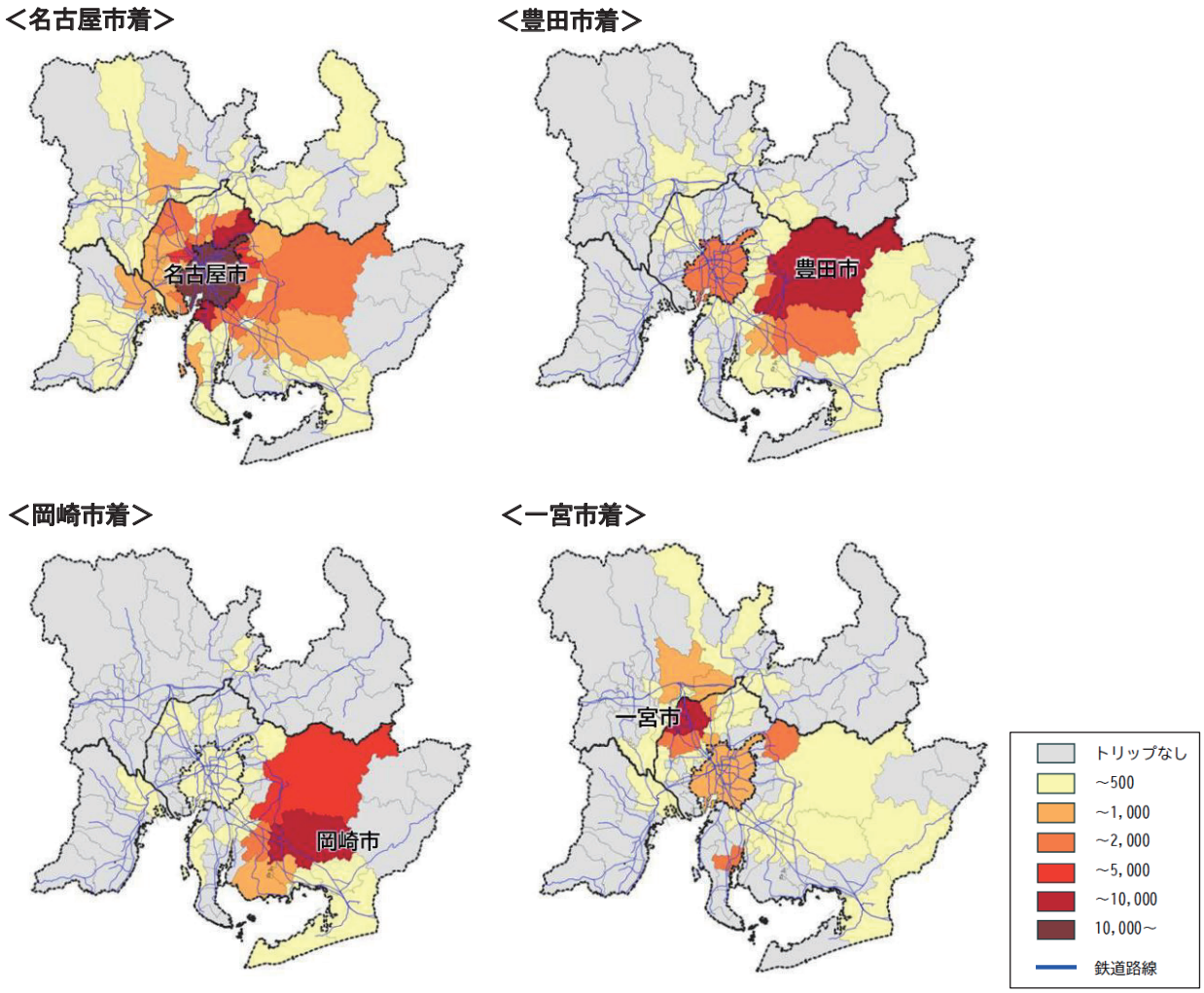

出典：中京都市圏総合都市交通計画協議会「第６回中京都市圏パーソントリップ調査」（2022 年調査、2025 年公表）

**図表１-10-87　買物トリップの市町村別集中量（平日）**




出典：中京都市圏総合都市交通計画協議会「第６回中京都市圏パーソントリップ調査」（2022 年調査、2025 年公表）

**図表１-10-88　買物トリップ集中量の多い主な都市の出発地分布（平日）**




出典：中京都市圏総合都市交通計画協議会「第６回中京都市圏パーソントリップ調査」（2022 年調査、2025 年公表）